

令和2年仕事始め式 町長講話

令和2年1月6日

皆さん、明けましておめでとうございます。
年末年始はゆっくり休んで、英気を養えたでしょうか？
令和になって初めての正月、新しい年が始まりました。

株式相場の格言で、今年の「亥年」は「いのしし固まる」と言われ、新しいステージに進むための準備期間としてしっかりエネルギーやパワーを蓄える年と言われています。

今年の「子（ねずみ）」は「ねずみ繁盛」と言われ「新しい生命が種子の中に萌し（きざし）始める」年、「草木の芽が出始める」年と言われています。

さて、私にとって去年は、町長として実質的な最初の1年となりました。就任以来、目指したい町のあり方として「活気あふれる明るい町」と「町外と活発な交流のある町」の二つを繰り返しお話してきましたが、この目標に向かって基礎を固める「礎の年」と位置づけて、積極的に様々な構想の検討や準備を行い、将来の種を蒔いてきました。

今年は、これまで検討や準備を重ねてきたことが具体的に動き出す「始まりの年」と位置づけ、着実に一段前へ進んでいく1年としたいと思います。

「山くじら」の取り組みについては、昨年6つの連携協定を結び、全国から産官学民が美郷町に集まってくることを目指した「美郷バレー構想」の実現に向け環境整備を行いました。今年はいよいよ具体的な成果が出て来始めます。

マス村との取り組みについては、昨年締結した「技能実習生等の受け入れに関する協定」を基に、今年技能実習生の受け入れが始める予定としており、町内事業体の人手不足の解消に向けた取り組みが始まります。

情報発信力の強化においては、去年はみさ坊の活動を中心に、まずは美郷町の認知度アップに注力しました。今年は認知度アップ以上に具体的な美郷町の魅力の発信、そして好感度アップに力を入れていきます。町の公式HPは10月1日にリニューアルし、総称として「みさとと。」というコンセプトの下、「よくある田舎のどこにもない物語」という副題がついており、美郷町の魅力を丹念に拾い上げて発信していく取り組みが既に始まっています。

新大和荘は今年 11 月末に完成し、来春オープン予定です。オープンに先立ち、町民の皆さんに満足して使っていただけるような運営の検討はもちろん、地域振興や地域活性化に結び付くように町民の皆さんを巻き込んで検討を始める予定です。また、町外からの観光や交流で訪れる方の中核施設となるよう指定管理候補者と協議を始め、「ワイナリー・リゾート・タウン構想」の準備が始まります。

また、「美肌県美肌町」の商標を登録し、美肌に関する取り組みも本格化させる予定です。

避難所の強化については、主要な避難所への太陽光発電設備と 3 日分の蓄電機能を持つ蓄電池の設置工事を始めます。今年中には完了し、災害時の停電に備えた電源を確保する体制を構築します。併せて、ドローンによる物資運搬の実証実験の道筋を付け、「空の駅構想」の準備が始まります。

このように、今年は様々な具体的な取り組みが始まる年です。

美郷町には高校がない、公立病院がない、鉄道がない、ホームセンターやドラッグストアもないまちです。

しかし、何もないからこそ、そこにいる人たちは徹底して知恵を絞っていかなければ何も打開できないという、開き直ることのできる環境に置かれていると言えます。ものは考えようです。

「革新は辺境から始まる」という言葉があります。「何もないけど知恵がある」まちとして、一緒に美郷町の未来を切り開いていきましょう。

最後になりますが、皆さんと皆さんの家族がこの一年間健やかに過ごされまことを祈念しまして私の仕事始めのあいさつとさせていただきます。